

UD 視点 2 学習や生活のきまり

様々な個性を持つ児童生徒が、安心して学校生活を送ることができる学級にするためには、一人一人に自己肯定感を育んでいくことが大切です。日々の学習や生活の中で、お互いの取組みのよさを認め合える経験を積ませていくことが必要になります。具体的にどんなふうに取り組んでいけばいいのか、それを学習や生活のきまりとしてわかりやすく示すことにより、一人一人が安心できる状況をつくり出していきます。



児童生徒の困っている状況 「UD」の視点による支援や配慮のポイント

① 学習活動のきまりをわかりやすく定めて指導している。 （「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」など）



話が聞けない、発表がうまくできない、ノートがうまく取れない



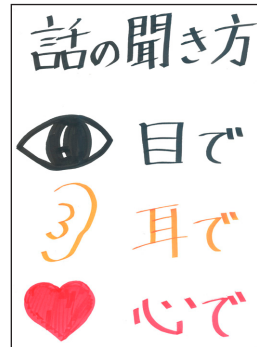
配慮を要する児童生徒にとって、何をどうしたらよいかわからない学習状況は、居心地が悪く不安を感じさせます。また、集中力や意欲を低下させ、学びを困難にします。

言葉の指示だけでは伝わりにくい児童生徒に対しては、学習活動のきまりをわかりやすく伝えることが必要です。学級全体にとっても、必要なきまりを振り返りやすくなるため、学習活動の質の向上が期待できます。

小学校では低学年のうちから、中学校、高等学校では1学年の早いうちから、継続的に定着を図りましょう。

<学習活動のきまりの示し方 例>

- 学級の実態に合わせて、その学習活動において、何をどのようにすればよいのかを端的な表記で掲示する。
 - ・友だちの考えと比べて発言しよう。「～さんの意見に賛成（反対）です。その理由は、～だからです。」
- 発達段階に応じて、言葉の指示だけでなく、絵や文字を組み合わせてわかりやすくする。



きまりの掲示(小学校)

② 学級生活のきまりをわかりやすく定めて指導している。 （時間のきまり、清掃や昼食時のきまりなど）



時間を守って行動できない、清掃や昼食時の係がうまくできない



配慮を要する児童生徒にとって、何をどうしたらよいかわからない生活状況は、居心地が悪く不安を感じさせます。また、トラブルの要因にもなり、生活を困難にします。

言葉の指示だけでは伝わりにくい児童生徒に対しては、学級生活のきまりをわかりやすく伝えることが必要です。学級全体にとっても、必要なきまりを振り返りやすくなるため、安心できる生活につながり、生活の質の向上が期待できます。

小学校では低学年のうちから、中学校、高等学校では1学年の早いうちから、継続的に定着を図りましょう。

<学級生活のきまりの示し方 例>

- 学級の実態に合わせて、その生活行動において、何をどのようにすればよいのかを端的な表記で掲示する。
 - ・授業3分前に、着席・学習準備!
 - ・教室清掃の手順（1窓開け 2はく 3ふく 4机運び）
- 発達段階に応じて、言葉の指示だけでなく、絵や文字を組み合わせてわかりやすくする。



当番表の掲示(小学校)

③ ①②について、児童生徒の実態を振り返り、必要に応じて見直しを図りながら指導している。



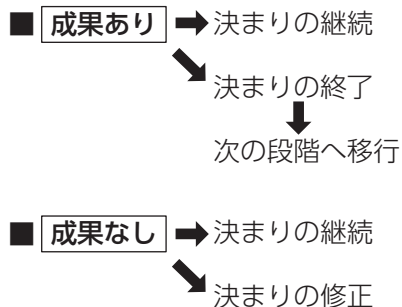
きまりが守られていない、そのきまりは身についたがまだ課題は残っている



児童生徒の実態は変化していきます。①②については、成果が出ている場合とそうでない場合があります。定期的（1日、1週間、1ヶ月、学期ごとなど）に、児童生徒の定着の様子を把握することが大切です。

きまりを指導していく過程において、児童生徒とともに、きまりの評価と見直しを意識しながら進めてみましょう。

<きまりの評価と見直し方 例>



2B話し合いのルール

目的: 声なき声や少数意見を尊重し、みんなで最善の道を探る。
 声の大きいものの意見や、わがままな意見が常に通ってしまっ
 ては話し合いではない。
 全員が素直に意見を伝えあえる場にしよう。

- ① 積極的に参加する。
- ② 気兼ねなく話せる雰囲気をもみんなで創
る。
- ③ 独りよがりの意見や感情的な意見は慎
む。
- ④ 持論の押しつけや、何でも反対すること
はNG。

見直しを重ねたきまりの掲示(中学校)

④ 担当教科の学習活動のきまりは、学級・学年・学校のきまりを踏まえて、わかりやすく定めて指導している。

教科担任



担当教科の学習のきまりを定めたが、①③と同じように児童生徒が困っている



教科担任は、学級の実態や学級担任の意図を十分に把握した上で、教科の特性に合わせた学習活動のきまりを考えることが大切です。

<中学校や高等学校>

学級担任と教科担任の学習活動のきまりが異なることにより、生徒が迷う場合も考えられます。

年度当初や日頃の情報交換を密にする必要があります。

<小学校>

学級担任がほとんどの教科の授業を受け持ちます。

教科担任は、学級担任に授業中の児童の様子を伝えながら指導をしていく必要があります。

美術の学習とはどんなもの？



小学校の『図画工作』が、中学校では『美術』になります。でも、けっして難しくなるということではありません。内容は、図画工作よりも専門的になっていきますが、みなさんの年齢に合わせた表現方法を学ぶので心配はいりません。よりいっそう新しい美を見つけ、追求していくことができます。芸術家と呼ばれた人たちの心境に近づく学習もしていきます。

美術の学習を通して、あなたの持つ感性をみがき、自分のよさを線や色、形や言葉で表現していきましょう。

◇表 現

絵 画	目に見えるもの、心の中で考えているものを平面に表す。
デザイン	目的や使いみちに合わせて絵や図で表す。
彫 刻	目に見えるもの、心の中で考えているものを立体に表す。
工 芸	目的や用途に合わせて生活に役立つものをさまざまな素材で表す。

◇鑑 賞

鑑 賞	作品について意見を出し合ったり、芸術家の作品を見て美意識を高め、創造のヒントにする。
-----	--

美術 教科の約束

- 1 授業準備をしっかりとする。(持ち物)
- 2 毎時間のめあてを確認する。
- 3 表現は、頭と心を働かせて手を使う。
- 4 個人表現は集中、グループ学習は協力。
- 5 道具をていねいに扱うこと。
- 6 自分の作品に責任を持つ。(期限厳守)
- 7 他の人のよさを認めて自分に生かす。

◎あなたが図画工作で好き(得意)だったことと、美術でがんばりたいことを具体的に書きなさい

学習プリントに示した教科のガイダンス(中学校)